

# 堺の歴史をまなぶ

## 女性部長研修会

堺連女性部長研修会を8月4日にひらき、各支部の女性部長と女性対策部、事務局の13人が参加した。

1か所目は、堺市船松人権歴史館にいき、船松人権歴史館チーフマネージャーで中央女性運動部員の中田理恵子さんの案内で、周辺地域をフィールドワークした。改良住宅や堺市立共同浴場、王将・阪田三吉顕彰碑、「来世では差別から解放されたい」との思いから信仰していたお寺や地元の人たちが手入れをし、管理している「地蔵尊」をみてまわった。資料館は、16世紀にポルトガルの宣教師ルイス・フロイスが「日本史」に堺の被差別部落民のこと



福德延命地蔵尊



坂田三吉顕彰碑

を記述していることから始まり、大正期以降の解放運動、1970年に識字学級の開設、1972年に堺市同和対策事業総合計画が策定され、劣悪な住宅から新しい団地が建設されたことがわかる歴史の展示のコーナーや船松の部落解放運動を紹介したコーナー、同和対策事業が実施される前の船松の人びとのくらしのようすをジオラマで展示しているコーナーがあり、狭い路地の長屋にある共同井戸や共同便所を歩いて体験した。

2か所目は大阪市HRC



右側が後から増設されたエレベーター



展示室で説明をうける

ビルに移動し、人権研究所50周年記念「大賀正行」連続講座を受講した。第1回目は幼少期からの「生い立ち編」で、戦時中に和歌山に疎開していた時のことや学生時代の子どもの会でのとりくみ、日之出地区の部落解放運動のあゆみが語られ

た。実生活のなかで、差別を受ける側とする側の両方の考えを体験しているので、それぞれの考え方を理解し、解放運動に繋がっているんだと思つたと参加者からの感想があつた。

## 持続可能なまちづくりのため 実態調査・重要 第63期県連解放学校

第63期県連解放学校を7月1日、プラザホープでひらき、各支部から約100人が参加した。

はじめに、県連を代表して藤本哲史・執行委員長から「今日は、先の県連大会で決定された運動方針を軸に、運動の方向を確認し、歩んでいくための解放学校で、また「推進法」の具体化を確認するためでもある。また、今日の講演は部落の実態を明らかにするために講師をお迎えしているが、県は国勢調査から実態

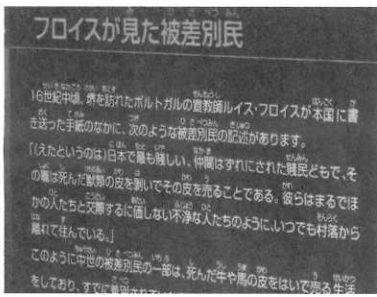


わかりやすく実態調査について講演する内田教授

をあらかじめしてきてきた。それとて部落の実態を網羅していない。講演では、部落の本質に照らし合わせて、教育や就労などはどうなっているのかを明らかにして



内田教授



フロイスがみた中世の被差別民の姿がしるされている

2016年12月に「推進法」が施行され、法務省の有識者会議の動向が注目されるなか、これまで実施されてきた意識調査にくわえ、生活実態調査の必要性と方法の模索が重要なのか「今後の部落実態調査の可能性―部落差別解消推進法を踏まえて」と題して内田龍史・尚綱学院大学教授から講演があつた。内田教授は、実態調査には行政データを活用した実態把握、国勢調査を活用した実態把握、隣保館調査、公営住宅調査、運動団体が実施した実態調査、運動団体が青年部や女性部を対象にした調査、被差別体験にしぼつた

やつていないのに、殺人犯。人生のほとんどを獄中で過ごした男たち。彼らは言う「不運だったけど、不幸ではない」。

「SAYAMA みえない手錠をはずすまで」  
「梅田 夢の間の世の中」に次ぐシリーズ第3弾！  
監督 金聖雄

# 獄友

ごくととも

ドキュメンタリー映画 2018年 115分

池田俊巳 表現活動  
谷川賢作  
プロデューサー 陣内直行  
制作・配給 K1moon Film

調査など、さまざまな形で実施されている。結果として都市部落の特徴は、地区人口の大幅な減少、単独世帯の割合が高い、学歴が低い、ブルーカラーが高くホワイトカラーが低いという結果がだされている。持続可能なまちづくりが問われていることに変わりはない、それらを実現するには行政や運動団体、研究機関、研究者の連携が非常に重要であるとしめくくつた。

## 反差別・人権尊重めざし 県共闘第43回総会

部落解放和歌山県共闘会議第43回定期総会が9月10日、和歌山県同和企業センターでひらかれ、各加盟団体から約140人が出席した。

はじめに、主催者を代表して濱野幸紀・県共闘会議議長から「日頃は県共闘会議の活動に積極的なご協力に感謝する。9月4日、超大型の台風21号が近畿を中心に上陸し、和歌山でも大